

令和4年9月15日発行

立山町教育センターだより 号外14

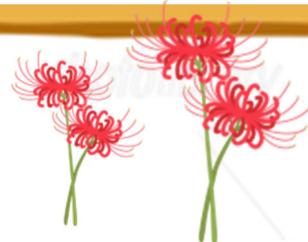
立山町教育センター 〒930-0221 立山町前沢 3318 TEL: 463-4407 FAX: 463-6622 URL: <http://www.tateyama-c.tym.ed.jp>

運動の秋。体育大会、運動会、運動集会等が行われた学校、これから行われる学校があります。新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応から、学校行事の内容や方法に見直しが行われ、それぞれが工夫を凝らしておられます。大切だと思います。

科学作品コンクール第二次審査会 R4.9.9 立山中央小

令和4年度立山区域小中学校科学作品コンクール第二次審査会を立山中央小学校体育館で行いました。周知のとおり、科学作品への取組は、以前のように全員に夏休みの課題として取り組ませることはやめ、作品応募の一つとして位置付け、児童生徒が主体的に取り組むようにしたいとの考えの下で実施しています。そのような中であって、今年は自然科学の部に30点、社会科学の部に16点の出品がありました。どの作品も立派で素晴らしいなあと感じました。審査委員の先生方は厳正な審査をする中であって、審査委員長の石原隆先生より、作品の見方や指導のあり方などを具体的に学んでおられました。各校においては、是非、ミニ研修会等の機会を通して、

その話を広める機会を設けていただきたく思います。



～ 県民カレッジ「夏季講座」の講演から ② ～

前回の続きです。藤原教授は、数学者でありながら、日本の教育で大切であるのは、何と言おうと「国語である」と主張されています。詳細は、著書をお読みください。

(『祖国とは国語』『国家と教養』『日本人の矜持』ほか)

具体の教育活動とつなげてみます。児童生徒は、読書(活動)をしているのでしょうか。また、国語に限らず自分の手で書き連ねたり書きためたりする「学習ノートのページ数」は増えているのでしょうか。ノートを使う場面は明らかに減っていると感じています。アナログとデジタルの併用という論議にもなるかと思いますが、「自分の手で文字を書く」という学習活動の場面は、今後も、おろそかにはできないとても大切な部分ではないかと考えます。いかがでしょうか？

文責：次長(所長代理) 松田 伸浩